善教寺
ZENKYO-JI

# 寺報 縁

2024年（令和６年）
No．３４８
１１月号
Zenkyo-ji monthly Communications Paper
En ［えん］

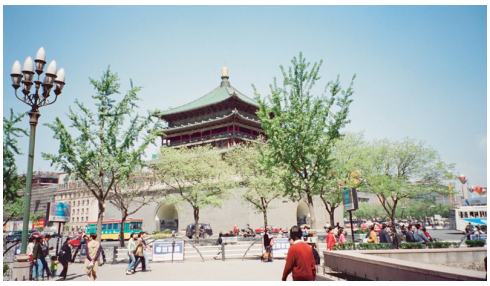
## Buddhist ruins exploration record at silk road
## シルクロード仏教遺跡探訪記

### ４日目【2000年4月１７日】
### 不安、不安、不安〈西安〉前半

朝食後、明後日に西安から鉄道で移動するための切符を取得しに行った。ガイドブックによれば、シルクロード鉄道は中国１３億の人民を移動させるための大動脈であり、鉄道切符の入手は困難を極めるとあった。外国人観光客は、ホテルか最寄りの旅行会社を通じて、別途手数料を支払って購入した方がいいと書いてある。それを信じて、先ずはホテルの旅行会社に行った。行き先、シート（座席）の種類を紙に書き、切符を購入しようとすると、即座に「出来ない」と言われた。抗弁する間もなく中国語でまくし立てられ、諦めて退散。

その後、ホテルを出てすぐのところにある民間の旅行会社に行ったが、ここでも断られた。次はタクシーで雨の中を（今日は朝から雨）、西安で一番大きな中国国営旅行会社（ＣＩＴＳ）に行ってみたが、ここでも出来ないとの返答。まさに八方ふさがり。困り果て、泣きたくなった。言葉が通じないので、カウンター越しに鬼気迫る表情で筆談をしていたせいか、奥から日本語が少し分かる人が来てくれた。その方から「外国人旅行者は三日後以降の切符しか発券できない」と言われ、やっと状況を理解した。

覚悟はしていたものの、日本では想像できない事態である。その上、言葉の壁。疲れ果て、ホテルに帰った。明朝、西安駅に行き、窓口に並んで自力で取得するしかなくなった。



西安の街（３枚とも）

## 住職レター

各ご門徒宅の報恩講参りが始まりました。毎年の恒例行事ゆえ、いつも同じお声を耳にします。「住職さん、一年が早うたちますね～」と。確かに・・・。年々、月日の移ろいを早く感じます。

この「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第三代覚如上人が、親鸞聖人の三十三回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。阿弥陀如来の本願のおこころを明らかにして下さった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご恩に感謝の思いからお勤めされる、浄土真宗でもっとも大切な法要です。

報恩講はお寺でお勤めされるだけではなく、古くから広くご門徒の家庭でもお勤めされてきました。地方によっては、「親の法事はもちろん大切だけど、報恩講はさらに大切」とまで言われるほどです。

護持会役員（帳場接待係）

先日（十月十九日）、善教寺護持会の報恩講を、無事に勤め終えました。善教寺の護持会は、善教寺総代・世話係による、善教寺を護持する組織です。護持会役員の皆さまの尽力により、今年も報恩講を勤めることが出来ました。

来月（十二月二日）には、善教寺の報恩講を勤めます。当日は、柏原地区のお同行の皆さまがお接待当番を担って下さいます。お昼は、従来通り報恩講様式でのお斎接待をして下さるとのこと。昼席には、近隣法中住職が参列されて、正信偈をお称え致します。楽しみにお参り下さい。

親鸞聖人の三十三回忌以降、毎年欠かさず、こうして受け継がれてきた報恩講、今年もご縁にあわせて頂きましょう。

護持会報恩講（開式前の様子）

発行日：2024年10月25日（毎月25日発行）発行所：浄土真宗本願寺派 善教寺
〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248

Buddhist ruins exploration record at silk road

# シルクロード仏教遺跡探訪記

## 4日目【2000年4月17日】 全37日間

## 不安、不安、不安〈西安〉後半

部屋の電話機でインターネットに接続

中華料理に飽きてハンバーガーを食べる

その後は、体力を温存しておこうと、部屋でインターネットに接続した。中国のインターネットはアクセス状況が悪いと聞いていたが、ここ西安に関しては問題ない。とはいえ、我が寺ではＩＳＤＮ回線でストレスなく通信しているが、こちらは通信速度が遅いせいか、写真データを送信するのに五分くらいかかる。これからシルクロードを進むと、果たしてインターネットにアクセス出来るのか心配である。

昨日、観光ツアーで一緒だった日本人について話しておく。女性の方は、西安に仕事で来られていた。スイスの医療機器メーカーの日本法人の会社にお勤めで、休暇をもらい観光中とのこと。英語も達者で、かなり通訳してもらった。

もう一人はバックパッカーの男性で、北京から昨夜、鉄道で西安入りしたとのこと。この方はヨーロッパからアメリカまで、リュックサック１つで渡り歩いているそうだ。旅の色々な話を聞いていると、ここも行きたい、あそこも行きたいと、気持ちが大きく膨らんだ。話には聞いていたが、バックパッカーは、旅の道中、どんな危険な目にあったかが美談のようだ。この方は、直接危険な目には遭ってないそうだが、こんな危険な話を聞いたよと教えてくれた。

観光ツアーで一緒だった日本人

この方は、旅を終えて日本に帰るそうだ。別れ際に「お守りだよ」って、小さなコンパスをくれた。異国の地で大変なハプニングに遭遇し、心細かった私の心を癒してくれた。

## 今後の法要スケジュール

**「宗祖聖人月忌・門信徒祥月命日法要」**（善教寺本堂）

十一月　十六日（土）午後一時半～

＊毎月十六日に本堂において勤めております。

**「報恩講」**（善教寺本堂）

十二月　二　日（月）

午前十時～　朝席

午後一時半～　昼席

午後三時半　法要終了

講師　河野 行昭 師（安芸郡坂町 西林寺）

＊お接待当番　柏原地区

**「除夜会」**（善教寺鐘楼堂）

十二月三十一日（火）

午後十一時四十五分～

＊鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます

**「元旦会」**（善教寺本堂）

一　月　一　日（水）午前七時～